

# 天王塚古墳(府中市)

前方が八雲神社





この社殿裏に天王塚古墳があると云う





1773年造立の石造の鳥居/右手に説明坂が立っている





## 天王宮 八雲神社「天王さま」の歴史

当天王宮八雲神社は、古くは天王宮と称され祀られて居ました。

明治初期の神仏分離令により当祭神は、神仏習合とみなされて八雲神社として改号されましたが、今日も分梅(分陪、分倍、分配)地域の鎮守様として多くの方達の心の拠り所として慕われ祀られてきております。

天王宮の祭神は牛頭天王、八雲神社の祭神は素盞鳴尊であります。合祀されております。当社の創設年は未詳であるものの、分梅通り(陣街道、古鎌倉街道)に面した境内の東北角

(社地)には、元応元年(二二一九年)の木に抱かれた石板碑、享保九年九月(二七二三年)に祭神像、安永七年(一七七八年)に石造の鳥居等が現存しております。

今より遡る事約七〇〇年以前には、社は存在していたと思われています。

現本殿は、安政四年三月(二八五七年)鎮守御宮請負書に依りますと、但し三尺五寸社、大流れ造り、腰四手先組、柱上三手先組、巨細絵図面の通、引渡しは万延元年十二月(一八六〇年)と記されておりますが、今回の修復(二〇〇七年)で文久三年三月(一八六七年)に完成したことが新に判明しました。

造りの概略は、腰に組物が付き屋根は、千鳥破風と唐破風の付いた一間社流れ造りで壁面全てに彫り物が刻まれた総檜造りです。神社の配置は、本殿を覆屋で囲い前面に、拜殿を置き、間に瑞垣で仕切られた幣の間を配置した形式となっております。例年の祭祀「天王祭」は、かつては春(旧暦五月二十五日)に斉行されて居ました。近年では、七月十四、十五日に近い土、日曜日に神輿、太鼓の巡行と共に斉行されております。

神社祈願は、疫病除け、縁結び、安産、子孫繁栄、無病息災、家内安全

等の願いを朝夕礼ともに尽くされて来たと思われ、伝えられております。

この様に歴史を刻み先人達により残された貴重な遺産を守り多くの崇敬者の信仰心とも相俟って先人の遺徳を子々孫々に亘り引き継ぎ、末永く祭祀を斉行しこれからも多くの人々の拠り所として皆様と共に崇敬の誠を尽くしてまいりたいと思っております。

また同境内にある稲荷神社も天王宮と同じく古くより祀られております。

祭神は稲荷神(宇迦之御魂神)この祭神は、農業、穀物の神様で当分梅もほとんどの家が農業を中心とした地域であった事から祀られて来たと思われております。

当社の創設年は未詳ですが、覆屋は、平成四年九月に改築しました。

神社祈願は、五穀豊穡であります。

例年の祭祀は、かつては二月最初の午の日に斉行されて居ました、近年ではその日に近い土、日の何れかの日に斉行されております。

又、九月一日には台風風害から作物を守る為「風祭」と呼ばれる祭が斉行されて居ましたが、近年では専業農家も少なくなり現在、斉行は中断されております。

さらに、神社境内の奥には、高倉古墳群の一つ天王塚古墳(六世紀後期)が未調査のまま唯一現存の古墳として残されております。

武蔵府中分梅鎮座

天王宮八雲神社氏子中

説明の最後に「神社境内の奥には、高倉古墳群の一つ天王塚古墳(六世紀後期)が未調査のまま唯一現存の古墳として残されております」と記されている



八雲神社拝殿







社殿を側面から見たところ/左奥が本殿の覆屋



1867年に完成した本殿





前方は稲荷神社





祠の背後にマウンドが見える





さて、これが社殿裏の天王塚古墳/六世紀後期築造の円墳らしい/北側から見たところ





近づいて北西側から見たところ





その右手(西側)は隣地とのブロック塀が立っている





東側を見たところ/社殿によって削られてしまっている





南東側から見たところ





南西側から見たところ





さて、この八雲神社(左手)の前面道路は「陣街道」という古道らしい/左手に標柱が立っている





府中本町と関戸(現・多摩市諏訪町辺り)を結ぶ道だったらしい/陣街道とは中世に軍勢が陣立して往来したことに由来すると云う





反対側から見たところ/右手が八雲神社





そこで右手を見ると板碑が立っている





府中市指定有形文化財

## 八雲神社脇の元応の板碑

指定 平成元年八月二十三日

鎌倉時代の中頃から室町時代の末までのおよそ二百年の間、府中では埼玉県秩父地方や比企地方で産する緑泥片岩を板状に加工した供養塔婆が盛んに造立されました。このような石造の供養塔婆を板碑と呼んでいます。

市内からは大小様々の六百基を超える板碑がみつかっています。この板碑は市内では最大級であり、加えて古道の傍らにあって造立当時の面影を残しているとみられる貴重なものです。

この板碑は元応元（一二二九）年十一月八日に、大藏近之という人物が亡き父親道仏の十七年忌追善供養のために建てたものと考えられています。

八雲神社境内のこの板碑は、風化が著しくなり現状での保存が困難になったため、現在は複製を設置しています。

平成二十四年三月

府中市教育委員会







参考ホームページ

[http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/t\\_tamak\\_tennou/](http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/t_tamak_tennou/)

<https://ameblo.jp/fookky/entry-12313676186.html>

<http://kofunmeguri.hatenablog.com/entry/2017/11/27/010000>

<http://pennihonshi.blog.fc2.com/blog-entry-408.html>

<http://kohunist.choitoippuku.com/%E5%BA%9C%E4%B8%AD%E5%B8%82%E5%A4%A9%E7%8E%8B%E5%A1%9A%E5%8F%A4%E5%A2%B3.html>



